目次

第一講　演習問題(1)……p. 2
第二講　演習問題(2)……p. 12
第三講　演習問題(3)……p. 22
第四講　演習問題(4)……p. 32

第一講　演習問題（1）

一　次の文章を読んで、あとの設問に答えよ（なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いた箇所がある）。

余[1]少時聞ク、平陵ノ曹(さう)敞(しやう)ハ、在(あ)リト㆓呉章ノ門下ニ㆒。往往ニシテ好ンデ斥(そし)ル㆓人ノ過チヲ㆒。以テ為シ㆓軽薄ト㆒、世人皆以テ為ス㆑[2]然リト。章ハ後ニ[3]為王(わう)莽(まう)所殺。人ノ無シ㆑有ル㆓[4]敢収葬スル者㆒。[5]弟子ハ皆更(かう)㆓-易(えき)シ姓名ヲ㆒、以テ従フ㆓他師ニ㆒。敞ハ時ニ為リ㆓司(し)徒(と)掾(えん)㆒。独リ称シテ㆓呉章ノ弟子ヲ㆒、収㆓-葬ス其ノ屍(しかばね)ヲ㆒。[6]方ニ知ル㆓[7]亮直ナル者ハ不ルヲ㆑見レ㆑容(い)レ㆓于冗輩ノ中ニ㆒矣。

（『西京雑記』）

（注）
- ○余――筆者の自称。
- ○平陵――地名。
- ○曹敞――人名。
- ○呉章――人名。儒学者。
- ○王莽――人名。前漢の平帝の死後、帝位を簒奪(さんだつ)し、新を建国した。
- ○更易――変える。
- ○司徒掾――官名。司徒という高官の下に属する。

○亮直――心が明らかで正しい。
○冗輩――おろかな者たち。

問一　傍線部1「少」、4「敢」、6「方」の読みを、送り仮名も含めてすべて現代仮名遣いのひらがなで記せ。

1＝

4＝

6＝

問二　傍線部2「然」の指し示す語を抜き出せ。

問三　傍線部3は「王莽の殺す所と為る」と読む。この読みにしたがって、返り点を付けよ（送り仮名は不要）。また、現代語訳せよ。

為 王 莽 所 殺 。

訳＝

問四　傍線部5「弟子皆更易姓名、以従他師」とあるが、「弟子」の取った行動の理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

① 王莽から危害を加えられることを恐れたため。
② 王莽と曹敞の対立に巻き込まれたくなかったため。
③ 呉章が優れた学者ではなかったことがわかったため。
④ 曹敞のような思慮の浅い者と同列に扱われたくなかったため。
⑤ 王莽が帝となったら儒学は時代遅れの学問になるとあきらめたため。

問五　傍線部7「亮直者不見容于冗輩中」の解釈として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

① 曹敞のような公明な者は、王莽のようなおろかな者には容認されない。
② 曹敞のような公明な者は、世間の凡人たちに理解されるものではない。
③ 曹敞のような公明な者は、呉章のような平凡な師には目をかけてもらえない。
④ 呉章のような公明な者は、曹敞のような愚直な人にしか評価されない。
⑤ 呉章のような公明な者は、おろかな弟子たちを容認することはない。

二　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。（設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある。）

家庭之教又必原於朝廷之教。朝廷之教以 (1) 、則家庭之教亦以道徳。朝廷之教以名利、則家庭之教亦以名利。(2)嘗有友人問、建文時何多忠義。予曰、此父兄之教厳耳。友人問、何以知之。曰、(3)以朝廷之教知之。蓋当時朝廷之教甚厳。其子弟苟或居官而不肖、則累及父母、累及宗族。故孩提之時苟或不肖、則其父兄必変色而訓之。語曰、少成若天性、習慣如自然。積累既深、(4)所以居官之時、雖九死而靡悔也。

（陸世儀『思弁録』による）

注　名利……名誉と利益。　建文…明の年号。　累……巻き添え。
宗族……一族。　孩提……幼児。　変色……怒りのあまり表情を変えること。
語……ことわざ。　少成……幼少期に培われた性質。　積累……積み重ね。

問一　空欄(1)に入る語としてもっとも適当なものを次の中から選びなさい。

A　道徳　　B　名利　　C　忠義　　D　不肖　　E　自然

問二　傍線(2)「嘗」の読みを、送り仮名も含めて平仮名で書きなさい。（平仮名以外に何も書かないこと）

問三　傍線(3)「以朝廷之教知之。」の解釈としてもっとも適当なものを次の中から選びなさい。

A　朝廷の教えによって、このことを始めた。
B　朝廷が教えたら、このことが徹底される。
C　朝廷の教えによって、このことがわかる。
D　朝廷が教えたら、このことが理解される。
E　朝廷の教えによって、これが周知される。

問四　傍線(4)「所以居官之時、雖九死而靡悔也」は、「くわんにをるのとき、きうしすといへどもくいなきゆゑんなり」と読む。これに従って、「靡」字の下に付く返り点を書きなさい。（返り点以外に何も書かないこと）

靡

問五　本文の内容に合致するものを次の中からひとつ選びなさい。

Ａ　朝廷の教えも家庭の教えも、名利を重んじるような方向は望ましくない。
Ｂ　昔の朝廷は、家庭における教えを厳格に行うように、国民を教え導いた。
Ｃ　厳格な教えの結果、国民が不安なく生活できるならば、国家は安定する。
Ｄ　朝廷の教えのありかたは、家庭における教えに対して、強い関係がある。
Ｅ　朝廷の教えは、家庭における教えよりも大きい影響力を持つことはない。

三　次の漢文は、中国の戦国時代の孟嘗君の誕生と幼少のころの逸話である。これを読んで、あとの(1)〜(3)の問題に答えよ（設問の都合上、返り点・送り仮名を省いたところがある）。

薛公田嬰有子四十余人。其賤妾有子、名文。文以五月五日生。嬰告其母曰、勿挙也。其母竊挙生之。及長、其母因兄弟而見其子文於田嬰。田嬰怒其母曰、吾令汝去此子、而［A］生之、何也。文頓首、因曰、君所以不挙五月子者、何故。嬰曰、五月子者、長与戸斉、将不利其父母。文曰、人生受命於天乎、将受命於戸邪。嬰黙然。文曰、必受命於天、君何憂焉。[1]必受命於戸、則可高其戸耳。誰能至者。嬰曰、子休矣。久之、嬰乃礼文、使主家待賓客。賓客日進、名声聞於諸侯。諸侯[2]皆使人請田嬰以文為太子、嬰許之。嬰卒而文果代立於薛。是為孟嘗君。（『史記』孟嘗君伝による）

（注）薛公……薛国の王。　　頓首……頭を地に打ちつけて行う拝礼。

⑴　傍線部１「必受二命於戸一、則可レ高二其戸一耳。」の解釈として最も適切なものを、次のイ〜への中から一つ選べ。

イ　人の運命は戸口に左右されるものなので、その戸を高くしさえすればよいのです。
ロ　人の運命は戸口に左右されるものなので、その戸より背はきっと高くなるにちがいありません。
ハ　人の運命は戸口に左右されるものなので、その戸を立派にすることができるはずです。
ニ　人の運命が戸口に左右されるものであれば、その戸を高くしさえすればよいのです。
ホ　人の運命が戸口に左右されるものであれば、その戸より背はきっと高くなるにちがいありません。
ヘ　人の運命が戸口に左右されるものであれば、その戸を立派にすることができるはずです。

⑵　空欄［Ａ］に入る語として最も適切なものを、次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　必　　ロ　将　　ハ　敢　　ニ　当　　ホ　未

(3)　傍線部２「皆使人請田嬰以文為太子」を訓読したときの返り点として最も適切なものを、次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　皆使㆔人請㆓田嬰以㆒㆑文為㆓太子㆒

ロ　皆使㆑人請㆓田嬰㆒以㆔文為㆓太子㆒

ハ　皆使㆑人請㆓田嬰㆒以文為㆓太子㆒

ニ　皆使㆘人請㆓田嬰以㆒㆑文為㆗太子㆖

ホ　皆使㆘人請㆓田嬰㆒以㆑文為㆗太子㆖

第二講　演習問題(2)

一　次の文章を読んで、後の問に答えよ。

京兆ノ長安ニ、有リ二張氏一、独リ処ル二一室ニ一。有鳩自外入、止於牀。（A）張氏祝(いの)リテ曰ハク、「鳩ノ来(きた)ル、為レ我ガ［ a ］也(や)タル、飛ビテ上レ二承塵ニ一。為ニレ我ガ［ b ］也(や)タル、即チ入レト二我ガ懐ニ一。」鳩飛ビテ入ル二懐ニ一。以テレ手ヲ探レバレ之ヲ、則チ不シテレ知ラ二鳩之所在ヲ一、而得タリ二一金鉤ヲ一。遂ニ宝トスレ之ヲ。自リレ是レ子孫漸(やうや)ク富ミ、資財万倍ス。蜀ノ賈至リ二長安ニ一、聞キレ之ヲ、乃チ厚ク賂(おく)ルレ婢ニ。婢竊(ぬす)ミレ鉤ヲ与フレ賈ニ。張氏既ニ失ヒレ鉤ヲ、漸漸トシテ衰耗ス。而シテ蜀ノ賈モ亦タ数(しばしば)罹(かか)リ二窮厄ニ一、不レ為ラ二己ガ［ c ］一ト。或(あるひと)告ゲテレ之ニ曰ハク、「天命也(なれバ)（B）、不レ可カラ二力(つとメテ)求ム一」ト。於テレ是ニ賷(もたら)シレ鉤ヲ以テ反(かへ)スニ二張氏ニ一、張氏ハ復タ昌(さか)ンナリ。

（干宝『捜神記』より。出題の都合上、返り点・送り仮名の一部を省略した）

（注）京兆……地名。　牀……寝台。　承塵……なげし、かもい。　鉤……帯留め。　蜀賈……蜀の地からやって来た商人。

問一　傍線部Ａ「有鳩自外入、止於牀」に「鳩の外より入る有りて、牀に止まる」と読めるように返り点を付せ。（送り仮名は不要）

有　鳩　自　外　入　、止　於　牀

問二　空欄 a ・ b を補う最適なことばの組み合わせはどれか。次の中から選べ。

1　a……貧　b……富
2　a……罰　b……賞
3　a……祥　b……厄
4　a……幸　b……災
5　a……禍　b……福

問三　空欄 c を補う最適なことばはどれか。次の中から選べ。

1　害　2　金　3　罰　4　利　5　鈎

問四　傍線部Ｂ「天命也」の解釈として最適なものはどれか。次の中から選べ。

1　それが使命なのだから
2　この命令には逆らうことはできないのだから
3　そういう運命なのだから
4　それが寿命というものだから
5　この命だけは大事にしないといけないのだから

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、問いの都合で返り点・送りがなを省いた部分がある。

有司請フ二事ヲ於斉ノ桓（くわん）公（こう）ニ一。桓公曰ク、以テ告ゲヨト二仲父ニ一。有司又請フ。桓公曰ク、以テ告ゲヨト二仲父ニ一。(X)若是者三タビス。在ルレ側ニ者曰ク、一ニモ則チ告ゲ二仲父ニ一、二ニモ則チ告グ二仲父ニ一。［Ｉ］キ哉為ルコトトレ君。桓公曰ク、吾未ダルトキニハレ得二仲父ヲ一則チ［Ⅱ］シ。已ニ得レバ二仲父ヲ一、(Y)曷為其不ランレ［Ⅲ］カラ也ト。故ニ王者ハ労シ二於求ムルニレ人ヲ、(1)佚（いつ）ス二於得ルニレ賢ヲ。舜（しゆん）ハ挙ゲテ二衆賢ヲ一在リレ位ニ、垂レ二衣（い）裳（しやう）ヲ一恭（うやうや）シクシレ己ヲ、(a)無為而天下治マル。湯・文ハ用ヒ二伊・呂（りよ）ヲ一、成王ハ用フ二周・邵（せう）ヲ一。而シテ刑ハ措（お）キテ不レ用ヒ、兵ハ偃（や）メテ而不ルハレ動カサ、用フレバ二衆賢ヲ一也。桓公用フルハ二管仲ヲ一則チ小也。故ニ至ルモ二於覇タルニ一、而不レ能ハ二以テ王タル一。故ニ孔子曰フハ二小ナル哉管仲之器ト一、(Z)蓋善（よみ）スルモノ三其ノ遇フヲ二桓公ニ一、(b)惜其不能以王也。至リテハ二(2)明主ニ一則チ不レ然ラ、所レ用フル大ナリ矣。詩ニ曰ク、済（せい）済（せい）タル多士、文王以テ寧（やす）シトハ、此ヲ之レ謂フ也。

（『新序』）

（注）○有司―役人。　○斉桓公―春秋時代斉国の君主。
○仲父―斉の管仲の呼び名。宰相として桓公を補佐した。
○舜―古の帝王の名。　○挙―登用する。　○衣裳―衣装。
○湯・文―殷の湯王と周の文王。
○伊・呂―殷の伊尹（いいん）と周の呂尚。それぞれ湯王・文王を補佐した。
○成王―周の王。　○周・邵―周公と邵公。成王を補佐した。
○刑措不用―刑罰は設けても適用しない。　○善―ほめたたえる。
○詩―『詩経』のこと。　○済済―優れた人物が多くそろっている。

問一　波線部(X)・(Y)・(Z)の送りがなを含めた読み方として最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選びなさい。

(X)　若是
ア　もしこの　イ　これにしく　ウ　わかきこの
エ　なんぢのこの　オ　かくのごとき

(Y)　曷為
ア　なんすれぞ　イ　なにをかなして　ウ　いづくにか
エ　いづくんぞ　オ　いづくのために

(Z)　蓋
ア　もし　イ　けだし　ウ　なんぞ
エ　すべからく　オ　おもへらく

問二　空欄[Ⅰ]・[Ⅱ]・[Ⅲ]には、「易」または「難」が入る。組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選びなさい。

ア　Ⅰ・易　　Ⅱ・易　　Ⅲ・易
イ　Ⅰ・難　　Ⅱ・易　　Ⅲ・易
ウ　Ⅰ・易　　Ⅱ・難　　Ⅲ・易
エ　Ⅰ・難　　Ⅱ・易　　Ⅲ・難
オ　Ⅰ・易　　Ⅱ・難　　Ⅲ・難

問三　二重傍線部(1)の解釈として最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選びなさい。

ア　賢人を適切な官につける
イ　賢人を得たことに感謝する
ウ　賢人を得たことに慢心しない
エ　賢人を得られたことに心安らぐ
オ　賢人の信頼を得るように努力する

問四　傍線部(a)の解釈として最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選びなさい。

ア　何一つできないままに
イ　決して偽りを言わずに
ウ　自身も努力を怠らずに
エ　一片の邪念も持たずに
オ　自ら手を下すことなく

問五　傍線部(b)は「其の以て王たらしむる能はざるを惜しむなり」と読む。これに施す返り点として最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選びなさい。

ア　惜[二]其不[一レ]能[二]以王[一]也
イ　惜[四]其不[三]能[二]以王[一]也
ウ　惜[下]其不[上レ]能[二]以王[一]也
エ　惜[丁]其不[丙]能[乙]以王[甲]也
オ　惜[三]其不[レ]能[二]以王[一]也

問六　二重傍線部(2)にふさわしい人物の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア〜オの中から一つ選びなさい。

ア　湯・文・伊・呂
イ　桓公・湯・文・孔子
ウ　伊・呂・周・邵・管仲
エ　舜・湯・文・成王
オ　桓公・舜・湯・文

問七　本文の内容に合致するものを、次のア〜キの中から二つ選びなさい。

ア　桓公は管仲を登用すると万事を管仲に任せて政を顧みなくなり、周囲に見放された。
イ　人材は大事だが、人材集めに心を砕くのは、王者のふるまいとしてふさわしくない。
ウ　桓公は管仲を信頼して用いつつ、管仲から多くを学び取ろうと努力を怠らなかった。
エ　舜は帝王としては凡庸だったものの、賢臣たちの尽力によって太平の治を実現した。
オ　管仲は桓公にめぐり会いその信任を得たが、桓公を王者にすることはできなかった。
カ　管仲は能力こそ高かったが人格面に欠点があったため、孔子は彼の器を小と評した。
キ　『詩経』の詩句は、君主はいかに多くの立派な人物を登用するべきかを示している。

三　次の漢文は、前漢の皇帝文帝が臣下に述べたとされる言葉である。これを読んで後の(1)～(3)の問いに答えよ。

古之治天下、朝有進善之旌、誹謗之木、所以通治道而来諫者。今法有誹謗妖言之罪、是使衆臣不敢尽情、而上無由聞過失也。将何以来遠方之賢良。其除之。

（『漢書』による）

注　古…太古。ここでは堯・舜の時代を指す　　通治道…統治の道を開くこと
来…来させる、招くこと　　妖言…あやしいつくりごとを言いふらすこと
上…天子、皇帝　　将何以…いったいどうやって　　賢良…かしこくて善良な人

⑴　傍線部１「朝ニ有リ二進善之旌、誹謗之木一」の説明として最も適当なものをイ～ニの中から一つ選べ。

イ　遠方の賢良について善事を書きこむ旗と、悪事を報告する板とが、朝廷に掲げてある。
ロ　民衆に対する善い政策を書き入れる旗と、悪事を報告する板とが、朝廷に掲げてある。
ハ　諫言する者について進言を書きこむ旗と、批判を書きこむ板とが、朝廷に掲げてある。
ニ　王朝に対して善政の提言を書きこむ旗と、批判を書きこむ板とが、朝廷に掲げてある。

⑵　傍線部２「是使衆臣不敢尽情」は「これしゆうしんをしてあへてじやうをつくさざらしむ」と訓読する。次の白文に最も適当な返り点を記入せよ。ただし送り仮名は書かないこと。

是　使　衆　臣　不　敢　尽　情

⑶　傍線部３「其レ除ケレ之ヲ」の「之」によって指示されている漢文中の語句として最も適当なものを次のイ～ニの中から一つ選べ。

イ　進善之旌　　ロ　誹謗之木
ハ　誹謗妖言之罪　　ニ　遠方之賢良

第三講　演習問題（3）

一　つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ（設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた箇所がある）。

昔者田*成子遊ビテ二於海ニ一而楽シムレ之ヲ。号‐二令シテ諸大夫ニ一曰ハク、言フレ帰ルヲ者ハ死セント。顔*（がん）涿（たく）聚（しう）曰ハク、君遊ビテレ海ニ而楽シモレ之ヲ、[1]奈人有図国者何、君［　A　］レ楽レ之、将タ安ンゾ得ント。田成子曰ハク、寡*人布キレ令ヲ曰フ二言フレ帰ルヲ者ハ死セント一、今子犯セリ二寡人之令ヲ一。[2]援戈将撃之。顔涿聚曰ハク、今君雖モ下殺シテ二臣之身ヲ一以テ三ニスト上レ之ヲ可也、臣ノ言フハ為ニシテレ国ノ、非ザルレ為ニレ身ノ也ト。延ベテレ頸（くび）ヲ而前（すす）ミテ曰ハク、君撃テトレ之ヲ矣。君乃チ釈（す）テレ戈ヲ趣（うなが）シテレ駕ヲ而帰ル。至ルコト三日ニシテ、而聞ク下国人ニ有中ルヲ謀ルレ不ラントレ内（い）レ二田成子ヲ一者ヲ上矣。田成子[3]所三‐以遂有二斉国一者、顔涿聚之力也。

（『韓非子』より。文章を一部省略した）

【注】
＊田成子　紀元前五世紀前半の人。田氏は、代々斉の国の大臣の家柄。
＊顔涿聚　賢者と評された人物。
＊寡人　王侯の自称。徳の少ない人という謙遜の意。

問一　傍線部1「奈人有図国者何」について、つぎの（一）（二）の問いに答えよ。

（一）　書き下し文は、「人の国を図る者有るを奈何せん」であるが、これに従って返り点をつけよ。

奈　人　有　図　国　者　何

（二）　書き下し文の解釈を、つぎの形式に従って、□に入るように二十字以内で記せ。ただし、読点や記号も一字と数える。

国を□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□。

問二　空欄 A に入る語として最も適切なものをつぎの中から選べ。

ア　故　　イ　非　　ウ　不　　エ　雖　　オ　未

問三　傍線部２「援戈将撃之」のひらがなのみの書き下し文として最も適切なものをつぎの中から選べ。

ア　ほことしやうをひきてこれをうつ
イ　ほこをひきはたこれをうたん
ウ　ほこをひきまさにこれをうたんとす
エ　ほこをひきもつてこれをうつ
オ　ほこをひきてほとんどこれをうつ

問四　傍線部３「所‐三以遂有二斉国一」についての作者の考えとして、最も適切なものをつぎの中から選べ。

ア　斉の国が成立することができたのは、顔涿聚の捨て身の攻撃のおかげである。
イ　田成子が斉の国の実権を掌握できたのは、顔涿聚が身を賭して諫めたからである。
ウ　田成子が斉の国に入らずに命が助かったのは、顔涿聚が危険を予言したからである。
エ　田成子が斉の国を領土に持つことができたのは、顔涿聚が命を賭けた策謀の成果である。
オ　斉の国に謀反が起きなかったのは、顔涿聚が命を犠牲にしてくれたからである。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。ただし出題の都合で送り仮名の一部を省略してある。

君独不聞蒯人之泣乎。昔蒯人為商而売氷于市。客有苦熱者将買之。蒯人自[A]以得時、欲邀客以数倍之利。客[a]於是怒而去。俄而其氷亦散。故蒯人進且不得氷、[B]二者倶亡、自泣而去。今君坐青雲之中、平衡天下。天下之士皆欲附矣。此亦君売氷之秋而士買氷之際。有利則合、[C]豈宜失時。苟使君強自遅廻至氷散、則君尚欲開口、其事[b]焉得哉。[D]願少図之。無為蒯人之事也。

（五代・王定保『唐摭言』巻一二）

（注）○蒯＝古代の地名。今の河南省洛陽市西南の地。
○其氷亦散＝氷も解け出した。

○坐青雲之中、平衡天下＝高い位に就いて天下を治める。
○遅迴＝ぐずぐずする。迷いためらう。

（一）　傍線の部分Aの意味として正しいものを、次のア〜エの中から一つ選べ。

ア　ゆっくり時間をかけた方が得だと思って
イ　時代の要求に合うようにしたいと思って
ウ　ちょうどいい時間帯を待ちたいと思って
エ　いまこそちょうどいい売り時だと思って

（二）　二重傍線の部分a・bの読みをすべて平仮名で記せ。現代仮名遣いでもよい。

a＝

b＝

（三）　傍線の部分Bは何と何を指すか。文中の語で答えよ。

(四)　傍線の部分Ｃを書き下し文にせよ。ただしすべて平仮名で記すこと。現代仮名遣いでもよい。

(五)　傍線の部分Ｄは具体的にはどうせよというのか。三〇字以内（句読点を含む）で記せ。

三　次の漢文は、江戸時代中期の儒学者である江村北海が、玉井という地に建てた別荘の風情を詠んだ藤原為時の漢詩について解説したものである。本文と注をよく読んで、以下の各問に答えなさい。なお、設問の都合により一部、訓点を省略したところがある。

五品（注1）為時、題玉井別荘 A 、

玉井佳名世所称　松楹（注2）半按碧岩稜

山雲繞屋①応褰幔　②潤月（注3）臨窓欲代燈

梅吐寒花朝見 1 　水収幽響夜知 2

③池辺何物相尋到　雁作来賓鶴作朋

④雖乏声格（注4）、首尾匀称（注5）、足称合作（注6）。為時女 B 以著源語（注7）称于世。

（注）
1　五品――為時の位階のこと。
2　松楹半按碧岩稜――松の柱は碧岩の角を押さえるように立てた。

3　潤月――河川の上に輝く月の光。　4　声格――格調。

5　首尾匀称――最初から最後までうまく照応している。

6　合作――合格に価する作品。　7　源語――『源氏物語』。

問一　空欄 A に入る適切な語を、ア～エの中から一つ選びなさい。

ア　五絶　　イ　五律　　ウ　七絶　　エ　七律

問二　この詩では第何句と第何句が対句になっているか、全て記しなさい。

問三　傍線部①「応褰幔」を全て平仮名で書き下しなさい。

問四　傍線部②「潤月臨窓欲代燈」を現代語訳しなさい。

問五　空欄 1 ・ 2 に入る漢字の組合せとして適切なものを、ア〜エの中から一つ選びなさい。

ア　会・去　　イ　雪・氷　　ウ　桜・散　　エ　鳥・眠

問六　傍線部③「池辺何物相尋到」とあるが、池辺を尋ねた（訪ねた）「物」を、詩の中から二つ抜き出しなさい。

問七　傍線部④は「声格に乏しと雖も、首尾匀称、合作と称するに足る。」と読む。これに従って次の白文に訓点をほどこしなさい。

雖乏声格、首尾匀称、足称合作。

問八　空欄 B に入る人名を考えて、漢字で答えなさい。

第四講　演習問題（4）

一　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答は現代かなづかいでもよい。なお、設問の都合で訓点を省略してある箇所がある。

太宗問魏徴曰、比来朝臣都不論事、何也。徴対曰、陛下虚心採納。①誠宜有言者。然古人云、未**信**(A)而諫、則謂為謗己、**信**(A)而不諫、則謂為尸禄。但人之才器各有不同。懦弱之人、懐忠直而不能言、疏遠之人、恐不**信**(A)而不得言。懐禄之人、慮不便身而不②敢言。③所以④相与緘黙俛仰過日。太宗曰、誠如卿言、朕毎思之。人臣欲諫、⑤輒懼死亡之禍。⑥与夫赴鼎鑊冒白刃、亦何異哉。故忠貞之臣、非不欲竭誠者、敢竭誠者、乃是極難。所以

禹ノ拝セシ二昌言ヲ一、豈ニ不ランレ為ラレ⑦此ガ也。朕今開キテ二懐抱ヲ一、納ル二諫（かん）諍（さう）ヲ一。卿等無カレ下労シテ二恐懼ヲ一、⑧遂不ル中極言セ上。

（『貞観政要』による）

注

○太宗――唐王朝第二代皇帝。広く人材を登用し諸制度を整え「貞観の治」と呼ばれる太平の世を築いた。

○魏徴――太宗に仕え諫議大夫などを歴任した。太宗に諫言することで有名であり、そのやりとりは『貞観政要』に多く載せられている。

○諫――目上の人の悪事や欠点などについて、忠告して改めさせること。

○尸禄――給料をもらうだけで職責を果たさない官僚。

○懦弱――臆病でいくじがないこと。　○疎遠――親密でないこと。

○懐禄――官職にすがりついて失職を恐れること。

○緘黙――口を閉じて黙っていること。　○俛仰――他人に同調して逆らわないこと。

○鼎鑊――罪人を処罰する刑具。　○冒白刃――敵の軍勢に突入すること。

○禹――夏王朝の伝説上の創始者。理想的な政治を行ったと言われる。

○昌言――道理にあった正しい諫言。　○懐抱――心の中。

○諫諍――つよく諫める言葉。　○極言――思う存分に発言すること。

問一　傍線部①「誠宜有言者」を送りがなも含めて全文ひらがなで書き下し文にせよ（送りがな部分は区別しなくてよい）。

問二　傍線部②「敢」、③「所以」、④「相与」、⑤「輒」、⑧「遂」の読みを送りがなも含めてひらがなで記せ。

②＝　　③＝　　④＝

⑤＝　　⑧＝

問三　傍線部⑥は「夫の鼎鑊に赴き、白刃を冒すことと、亦(また)何ぞ異ならんや」と書き下せる。これに返り点を施せ。

与 夫 赴 鼎 鑊 、冒 白 刃 、亦 何 異 哉 。

問四　臣下が諫言しない理由を最も端的に表している語を五字以内で抜き出せ。

問五　本文中にはA信という言葉が三回用いられているが、それらはすべて同じ意味と見なせる。それは、誰が誰に何を信じてもらうことなのか。具体的に二十五字以内で記せ。

問六　傍線部⑦の「此」が指す内容を本文に即して三十字以内で説明せよ。

二　次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、問題に関連する箇所の送り仮名、返り点は省いてある。

羅公遠天宝(ノ)初(メ)侍(ス)二玄宗(ニ)一。<u>八月十五日</u>(A)夜、宮中(ニ)翫(めデテ)レ月(ヲ)、曰(ハク)、陛下能(ク)従(ヒテ)レ臣(ニ)月中(ニ)游(バンヤト)乎。乃(チ)取一枝 【X】、向(ヒテ)レ空(ニ)擲(なグルニ)レ之(ヲ)、化(シテ)為(ル)二一橋(ト)一。其(ノ)色如(シ)レ銀(ノ)。<u>請上同登</u>(B)。約(ほぼ)行(クコト)数十里、遂(ニ)至(ル)二大城闕(ニ)一。公遠曰(ハク)、此(レ)月宮也(ト)。有(リテ)二仙女数百一、素練寛衣、舞(フ)二於広庭(ニ)一。上前(すすミテ)問(ヒテ)曰(ハク)、此(レ)何(ノ)曲(ゾ)也(やト)。曰(ハク)、霓裳羽衣也(ト)。上密(カニ)記(シテ)二其(ノ)声調(ヲ)一、遂(ニ)回(かへルニ)レ橋(ニ)、<u>却顧、随歩而滅</u>(C)。且(ニ)諭(さとシテ)二伶官(ニ)一、象(リテ)二其(ノ)声調(ヲ)一、作(ル)二霓裳羽衣(ノ)曲(ヲ)一。

（注）「羅公遠」…唐代の道士。　「天宝」…唐の玄宗の年号。
「玄宗」…唐の皇帝。　「伶官」…音楽師。

問一　傍線部Ａ「八月十五日」について、旧暦のこの日は何と呼ばれるか。その呼称（漢字二字）を記せ。

問二　空欄［Ｘ］には、植物名を表す漢字一字が入る。この植物は、中国では月に生えていると伝承され、科挙に合格することを「折［Ｘ］」ともいったことが知られる。このことは日本にも伝わって、菅原道真の母は道真の元服に際して「ひさかたの月の［Ｘ］も折るばかり家の風をも吹かせてしがな」と詠んでいる。その漢字として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

イ　梓　　ロ　桂　　ハ　桜
ニ　椿　　ホ　柳

問三　傍線部Ｂ「請上同登」を書き下し文にあらため、全文ひらがなで書くとどうなるか。最も適切なものを次の中から一つ選べ。

イ　かみをこひおなじくのぼれる。
ロ　じやうよりこひおなじにのぼる。
ハ　あがりておなじくのぼらんをこふ。
ニ　うえにのぼるをおなじにせんとこふ。
ホ　しやうにおなじくのぼらんことをこふ。

問四　傍線部Ｃ「却顧、随歩而滅」はどのような意味か。最も適切なものを次の中から一つ選べ。

イ　振りかえると、歩くたびに仙女が姿を消した。
ロ　考え直して、歩むごとにその曲調を失った。
ハ　振りかえると、一歩進むごとに橋が消えていった。
ニ　考え直して、一歩を進めるたび明かりが減った。
ホ　振りかえると、歩数を重ねた分だけ月宮が遠のいた。

問五　末尾に記される「霓裳羽衣曲」の由来として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

イ　羅公遠が月宮で曲調を習いおさめて帰るや、夜明けを待てず音楽師を急き立てて採譜させた。
ロ　月宮で聞いた曲調を覚えて帰った玄宗が、翌朝音楽師に命じてその曲調にならって作らせた。
ハ　仙女が羅公遠に秘蔵の楽譜を写させ、翌朝その楽譜を手に入れた玄宗が音楽師に伝録させた。
ニ　月宮で耳にした曲調を書きとめて帰った羅公遠が、翌朝音楽師にその曲調に模して作らせた。
ホ　仙女から曲調の奥義を授けられて帰った玄宗が、夜明けを待てずに音楽師に奥義を伝授した。

模範解答

第一講

〔模範解答〕

一

問一　1　わかき　4　あえて　6　まさに　**問二**　軽薄

問三　為二王莽所一レ殺　（訳）王莽に殺される　**問四**　①　**問五**　②

二

問一　A　**問二**　かつて　**問三**　C　**問四**　靡上レ　**問五**　D

三

(1)　ニ　(2)　ハ　(3)　ホ

〔現代語訳〕

一

私は若い時に聞いた、「平陵の曹敞は、呉章の弟子であった」と。（曹敞は）しばしば好んで人の過ちを糾弾した。（ある人が曹敞を）軽薄だとみなしたが、世間の人も皆そうだ〔＝軽薄〕と思った。呉章は後に王莽に殺された。（呉章の死体を）進んで引き取り葬儀をしようとした人はいなかった。弟子たちは皆名前を変え、他の師についた。曹敞はその時司徒掾だった。ただ一人呉章の弟子を名乗り、その死体を引き取り葬儀をした。（曹敞のような）公明な者は、世間の凡人たちに理解されるものではないと（私は）ちょうどその時知った。

二

家庭の教えはまた必ず朝廷の教えに由来する。朝廷の教えが道徳によって行われるならば、家庭の教えもまた道徳によって行われる。朝廷の教えが名誉と利益（を重んじる仕方）によって行われるならば、家庭の教えもまた名誉と利益（を重んじる仕方）によって行われる。以前友人がいて（私に）質問した、「建文の時どうして忠義の者が多いのか」と。私が言うことには、「これは父兄の教えが厳格であったのだ」と。友人が質問した、「どうやってこれがわかるのか」と。（私が）言うことには、「朝廷の教えによって、これがわかる。思うに当時の朝廷の教えは非常に厳格であった。その子弟がもし官職に就いて愚かならば、巻き添えは父母に及び、巻き添えは一族に及ぶ。だから幼児がもし愚かならば、その父兄は必ず怒りで顔色を変えてこれ（＝幼児）を教え導く。ことわざに言われている、『幼少期に培われた性質は生まれつき備わった性質のようなものであり、習慣（により身につけたもの）はもとから備わった性質のようなものである』と。積み重ねが非常に長いことは、官職に就いている時、もう命が助かりそうもない危険な状態になっても後悔しない理由である」と。

三

薛国の王の田嬰には子が四十数人いた。彼の身分の卑しい妾に子がいて、文と名付けた。文は五月五日に生まれた。田嬰が文の母に告げて言うことには、「取り上げること（＝育てること）をしてはならない」と。文の母はこっそりと取り上げて文を育てた。成長した時に、文の母は兄弟のとりなしで子の文を田嬰に謁見させた。田嬰は文の母を叱って言うことには、「私はおまえにこの子を捨てさせた。それなのに強引にこの子を生み育てたのは、どうしてか」と。文は（父に）拝礼して言うことには、「主君が五月生まれの子を取り上げない理由は、どういう理由ですか」と。田嬰が言うことには、「五月生まれの子は、（成長して）背丈が戸と等しくなったら、その両親に害をなそうとするものだ」と。文が言うことには、「人は、運命を天から受けるのか、それとも運命を戸から受けるのか」と。田嬰は黙っている。文が言うことには、「確かに運命を天から受けたなら、主君がどうして心配するのか、いや、しなくてよいでしょう。（もし人の）運命が戸口に左右されるものであれば、その戸を高くしさえすればよいのです。（戸をその都度高くしていけば）いったい誰が戸の高さに到達できましょうか」と。田嬰が言うことには、「子よ、（わかったので）やめてくれ」と。しばらく経って、田嬰はやっと文を礼遇し、家政をつかさどらせ賓客

の接待をさせた。賓客たちは日々（文の前に）進み出て、（文の）名声は諸侯に知られた。諸侯たちは皆使いに、田嬰に文を後継者とするようにお願いさせたところ、田嬰はそれを許可した。田嬰が亡くなって、やはり（文が）代わって薛国に王として即位した。これが孟嘗君である。

第二講

〔模範解答〕

一

問一　有㆓鳩自㆑外入㆒、止㆓於牀㆒　**問二**　5　**問三**　4　**問四**　3

二

問一　(X)　オ　(Y)　ア　(Z)　イ　**問二**　ウ　**問三**　エ

問四　オ　**問五**　ア　**問六**　エ　**問七**　オ・キ

三

(1)　ニ　(2)　是使㆔衆臣不㆓敢尽㆑情　(3)　ハ

〔現代語訳〕

一

京兆の長安に、張氏がいて、一人で部屋にいた。外から入ってきた鳩がいて、寝台に止まった。張氏が祈って言うことには、「鳩が来たのが、私にとって禍ならば、飛んでかもいに上れ。私にとって幸福ならば、すぐに私の懐に入れ」と。鳩は飛んで懐に入った。手で懐を探ったが、鳩がどこに行ったかわからず、一つの金の帯留めを手に入れた。そこでこれを宝とした。これより子孫は次第に富み、資産は一万倍となる。蜀の地からやって来た商人が長安にきて、これを聞き、そこで（張氏の）下女に多くの金品を送った。下女は帯留めを盗み商人に与えた。張氏は帯留めを失ってしまい、次第に衰えた。そして蜀の商人もまたたびたび困窮して生活に困る事態に陥り、（帯留めを手に入れても）自分の利益にならなかった。ある人が彼に告げて

言うことには、「そういう運命なのだから、（人間が）尽力して求めることはできない」と。そこで（商人が）帯留めを張氏に返すと、張氏は再び繁栄した。

二

役人がすべきことを斉の桓公（＝君主）に求めた。桓公が言うには、「仲父（＝管仲）に言え」と。役人がまた求めた。桓公が言うには、「仲父に言え」と。このようなことが三度あった。側にいた者が言うには、「一にも仲父に言い、二にも仲父に言う。たやすいものだなあ、君主であることは」と。桓公が言うには、「私がまだ仲父を得ない時期には（国を治めるのは）難しかった。もう仲父を得たので、どうしてたやすくないことがあろうか、いや、たやすい」と。だから王は人材を探すのに苦労し、賢人を得られたことに心安らぐ。舜（古の帝王）は多くの賢人と登用して（重要な）地位に就け、（自分は）立派な衣装でつつましく振る舞い、自ら手を下すことなく天下は治まる。湯王（＝殷の王）と文王（＝周の王）は伊尹と呂尚を重用して、成王（＝周の王）は周公と卲公を重用した。そして刑罰は設けても適用しないで、兵力は留めおきて動かさないのは、多くの賢人を重用しているからである。桓公が管仲を重用したのは（規模が）小さいといえる。だから諸侯の長にはなったが、王者にはなれなかった。したがって孔子が管仲の器が小さいと言ったのは、思うに（管仲が）桓公に出会ったのをほめたたえてはいるが、それによって（桓公を）王者にならせることができなかったのを残念に思ったのであろう。賢明な主君の場合に至ってはそうではなく、登用のしかた（の規模）が大きいのである。『詩経』で言うところの、「優れた人物が多くそろっている」（状態であり）、文王が安泰であったのは、こういうことを言っているのである。

三

太古（＝ここでは堯・舜の時代）の天下を治める策として、朝廷には（王朝に対して）善政の提言を書きこむ旗と、批判を書きこむ板とがあり、統治の道を開いて諫める者を招く手段である。現在、法に（政治の）誹謗やあやしいつくりごとを言いふらすの（を罰する）罪があり、これが、人民たちが心情を尽くして言おうとするのを完全にやめさせ、そして皇帝はそのため過失を聞くことができなくなるのである。いったいどうやって遠方のかしこくて善良な人を招くことができるのだろうか、

いや、できない。さあ、これ（＝誹謗妖言の罪）を廃止せよ。

第三講

〔模範解答〕

一

問一　(一)　奈三人有二図レ国者一何
(二)　乗っ取ろうとする者がいたらどうするのか（十九字）

問二　エ　**問三**　ウ　**問四**　イ

二

(一)　エ　**(二)**　a　ここにおいて　b　いづ〔ず〕くんぞえんや

(三)　氷・客　**(四)**　あによろしくときをうしなふ〔う〕べけん（や）

(五)　君に仕えたいと人々が思っている時期を逃さずに、彼らを用いよ。（三十字）

三

問一　エ　**問二**　第3句と第4句、第5句と第6句

問三　まさにまくをかかぐべし

問四　河川の上に輝く月の光は窓から射しこんで、灯の代わりになろうとしている

問五　イ　**問六**　雁・鶴

問七　雖モレ乏シト二声格ニ一、首尾匀称、足ルレ称スルニ二合作ト一。

問八　紫式部

〔現代語訳〕

一

昔（斉の国の大臣の）田成子は海へ出かけこの海を気に入った。臣下の者たちに命令を伝えて言うことには、「帰ると言う者は死ぬことになるだろう」〔＝国に帰ろうと言う者は死刑に処す〕と。顔涿聚が言うことには、「主君は海に出掛けこの海がお気に召したようですが、（留守中に）国を乗っ取ろうとする者がいたらどうするのか、主君がこれをお気に召したとしても、どうして楽しむことができましょうか、いや、できない」と。田成子が言うことには、「私は命令を出して帰ると言う者は死ぬだろうと言った、今おまえは私の命令に背いた」と。矛を手に取り今にも顔涿聚を殺そうとした。顔涿聚が言うことには、「今主君が私を殺してこれ〔＝暴君に諫言して殺された忠心〕を三人〔＝ここでは、暴君の桀・紂に諫言して殺された関竜逢と比干と、今から殺される自分のこと〕にしてもかまいません、私が申し上げたのは国のためで、自分の身のためではない」と。（顔涿聚は）首を差し伸べて詰め寄り言うことには、「主君よ、この首を斬ってください」と。主君〔＝田成子〕は矛を置いて車の支度をさせて帰った。三日が過ぎ、田成子を（国に）入れまいと計画した者がいたことを聞いた。田成子が最終的に斉の国の実権を掌握できた理由は、顔涿聚の力である。

二

君主さまに限って蒯の人が泣いた話を聞いていないのですか。昔蒯の人が商売をして氷を市場で売っていた。客に熱病に苦しむ者がいてこれを買おうとした。蒯の人は自分でいまこそちょうどいい売り時だと思って、数倍の利益を客に求めようとした。客はそこで怒って去った。まもなくその氷も解け出した。そのため蒯の人は（商売を）続けようとしてもそのうえ氷も手に入らず、二つを一緒に失って、自分から泣いて去った。今君主さまは高い位に就いて天下を治めています。天下の士は皆君主さまに仕えたいと思っています。これもまた君主さまが氷を売る時であり、士は氷を買う時です。利益があって一致している。どうして時期を逃してよいでしょうか、いや、よくない。もし君主さまが頑強に自分で迷いためらって氷が解け出すことになったら、君主さまがもう口を開いても〔＝士を求めても〕、そのことが実現できましょうか、いや、できない。どうかすこしこれ〔＝人々が君主さまに仕えたいと言っているこの時期を逃さず、彼らを登用すること〕をお考えください。蒯の人の

過ちを犯してはいけない。

三

五品の位階である為時が、玉井にある別荘を題にして詠んだ七言律詩、

玉井の名声は、世の中で広く称えられている。
松の柱は碧岩の角を押さえるように立てた。
山の雲が家の周りに垂れこめて、（その様子は）垂れ幕を掲げているようだ。
河川の上に輝く月の光が窓から射しこんで、灯の代わりになろうとしている。
梅の花が寒々としたときに開いて、朝（それを）雪かと見て、
水音がかすかにもしなくなり、夜（川面が）凍ったのを知る。
池のほとりに一体何が訪れてくるのだろう。
雁は来客となり、鶴は（私の）友となる。

格調に乏しいといっても、最初から最後までうまく照応して、合格に価する作品だと評価するに十分である。為時の娘の紫式部は『源氏物語』を著したことによって世の中で称賛されている。

第四講

〈模範解答〉

一

問一　まことによろしくいふ〔う〕ものあるべし

問二　②　あへ〔え〕て　③　ゆゑ〔え〕んなりと　④　あひ〔い〕ともに
⑤　すなは〔わ〕ち　⑧　つひ〔い〕に

問三　与㆘夫赴㆓鼎鑊㆒、冒㆗白刃㆖、亦何異哉。

問四　懼死亡之禍

問五　臣下が皇帝に忠義と誠意をもって仕えていること。（二十三字）

問六　命の危険があり忠誠を尽くし諫言するのは難しいと理解したこと。（三十字）

二

問一　中秋　問二　ロ　問三　ホ　問四　ハ　問五　ロ

〈現代語訳〉

一

太宗が魏徴に尋ねて言うことには、「最近、朝廷の臣下がみな物事について議論しなくなったのは、どうしてか」と。魏徴がお答えして言うことには、「陛下は虚心に（臣下の意見を）受け入れている。本当に意見を言う者にはちょうどよいはずです。しかし古人が言うことには、『まだ信頼されていないのに諫めれば、自分を批判していると言われ、信頼されているのに諫めなければ、給料をもらうだけで職責を果たさない官僚と言われる』と。ただ人の才知と器量は同じではない。臆病でいくじが

ない人は、忠義の心と正直さを持っているが、言うことができない。親密でない人は、信じてもらえないことを恐れて言うことができない。官職にすがりついて失職を恐れる者は、自分の身に都合が悪いことが起こることを恐れて決して言うことができない。みな口を閉じて黙っていて他人に同調して逆らわないことで日々を過ごす」と。太宗が言うことには、「本当にそなたの言うとおりで、私は常にこのことを考えている。臣下が諫めようとすれば、すぐさま死刑という禍を恐れるだろう。罪人を処罰する刑具に向かうことと、敵の軍勢に突入することには、何の違いがあるだろうか、いや、ない。だから忠義の心や節操のある臣下は、誠意を貫くことを望まない者ではないのであって、勇気を持って誠意を貫くことが、非常に難しい。禹〔＝伝説上の創始者〕が道理にあった正しい諫言を拝聴したのは、どうしてこれ〔＝命の危険があり忠誠を尽くし諫言するのは難しいと理解したこと〕でないことがあろうか、いや、理解したからだ。私は今心の中を開き、つよく諫める言葉を受け入れる。臣下のそなたたち、恐れて最後まで思う存分に発言しないでいることはないように」と。

二

羅公遠は天宝年間のはじめに玄宗皇帝に仕えていた。八月十五日〔＝中秋〕の夜、宮中で（名）月を鑑賞していて、（公遠が）言うことには、「陛下は私と一緒に月の中に行けますか」と。そこで（公遠が）桂の枝を一本取り、空に向かって投げると、（枝は）一本の橋になった。その色は銀のようだ。（公遠は）皇帝〔＝玄宗〕に一緒に（橋を）登ることをお願いした。数十里ほど行くと、そのまま大きな城門に着いた。公遠が言うことには、「これが月の宮殿です」と。仙女が数百人いて、白い練り絹のゆったりとした衣装で、広い庭で舞っていた。皇帝は前に進んで質問して言うには、「これは何の曲か」と。（質問された者が）言うことには、「霓裳羽衣です」と。皇帝はこっそりとその曲調を覚え、そのまま橋に戻ったが、振りかえると、一歩進むごとに橋が消えていった。翌朝、（皇帝は）音楽師に（曲調を）告げ、その曲調にならって、（音楽師が）霓裳羽衣の曲を作った。

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。